

チェルノブイリから1年 粘り強く関電交渉を行います 多くの参加を

4月30日(水) 午後6時から

関電本社前 午後6時集合 (地下鉄四つ橋線「肥後橋」駅下車)

問い合わせは 久保(0729-39-5660)まで

- ・ 電力自由化の中、お荷物となる原発をもうやめよ!
- ・ 和歌山県の御坊に中間貯蔵施設なんてとんでもない
- ・ 高浜 号を動かすな!
圧力容器の低管台部にひび割れが見つかったも運転を再開するなんてとんでもない

電力会社各社の2003年度の電力供給計画 徹底したコストダウンを追求

電力各社の今年度の経営計画が出されました。電力需要の低迷や電力自由化による市場競争への対応などを反映し、徹底したコストダウンや営業力強化、業務効率化を継続し、電力設備投資を大幅に減らしています。これでは、原発を運転すると、ますます「安全」性が切り縮められ、原発重大事故の危険な方向へと向かってしまいます。

関西電力をみても、電源開発計画では着工予定の和歌山=LNG、御坊第二=新種燃料の運転開始時期を1年繰り延べ、2013年度以降としました。日本原電敦賀原発3号機を2011年度、同4号機を20

11年度以降にと、受電開始時期を1年繰り延べました。

電力自由化の流れのなか、このような繰り延べの動きは、この先も続きそうです。原発新增設を阻止できる流れが出来つつあります。、立地点での粘り強い反対運動をさらに大きくし、断固闘えば原発新增設計画を阻止できる状況が生まれてきています。福井の敦賀3・4号炉増設計画を阻止する粘り強い闘いをすすめていきます。

もんじゅの運転再開の動きを許さないぞ 敦賀3・4号炉増設反対と共に

もんじゅ裁判では、勝利しました。しかし、原子力安全委員会は3月26日、高速増殖原型炉もんじゅの設置許可を無効とした名古屋

高裁金沢支部の判決に対し、安全審査を行った立場から反論する見解をまとめ、公表しました。何とか巻き返しを狙っています。国の動きに注意していかねばなりません。

また、六ヶ所の再処理工場では、溶接欠陥が明らかにされました。再処理工場の稼働を阻止するチャンスです。これを契機にプルサーマルの中止も迫っていきましょう。

最近、和歌山県御坊市に原発使用済み核燃料の中間貯蔵施設の誘致が浮上してきました。（４月４日に御坊市長などに申し入れ。市議員１６名にも同申し入れをしました。）

４月３日には、関電との交渉を予定しています。敦賀３・４号炉の計画をやめさせること、もんじゅ、再処理工場稼働反対、中間貯蔵施設問題などで関電を追及し、関電に原発反対、核燃料サイクル反対を求めています。

維持基準を許さないぞ

東京電力の不祥事問題以降、原子力安全委員会は、少々ひび割れていても原発を運転しても大丈夫ということ进行宣传し、強引に運転再開にこじつけようとしています。

いっぽう、地元住民は、これでは原発の安全性は保証できないと、強く反対しています。東電は、運転再開をするために点検をするとして、合意を取り付けようとしています。

「少々ひび割れがあっても大丈夫とする」原発の維持基準の導入に対してますます矛盾が激化しはじめています。

高浜1号で、ひび割れ問題が起こる

２月１２日、関電は、「高浜１号でひび割れが見つかったが、大丈夫だ」として、運転を開始しました。これはまさに維持基準の先取です。

私たちは、２月１０日に「美浜事故１２年 関電交渉」を行いました。その時、高浜３・

４号炉の原子炉容器上蓋の管台部は、温度を低くして使用しているのが大丈夫であると言っていました。しかし、高浜１号のひび割れについては何らの話もなされませんでした。今回見つかったひび割れは、頂部温度よりももちろん低い温度で応力腐食割れが起こっていたのです。自分たちの都合の悪いことはどうして隠すのでしょうか。

このヒビ割れは、１月の定期検査で分かっていたにもかかわらず、２月１０日の交渉では隠していたのです。このような対応は、昨年の東京電力の起こした事件と同じ体質ではないでしょうか。関電の不誠実でふまじめな対応に怒りを覚えます。

しかも、ひび割れは、ECT検査で長さ約３２mm、深さ１mm以下と推定しています。

私たちは、「このECTの検査精度を明らかにしてください」とお願いしても、検査精度を明らかにせず、どうして微少な信号指示であり、判定基準以下であると断定できるのでしょうか。最近、超音波探傷検査でも実際の傷よりも１０分の１の傷としか判定できないあやふやな精度であったということが暴露されています。関電は、今こそECTの検査精度について公表すべきです。

高浜１号を例にしなから、関電に維持基準の先取りを許さない闘いが今こそ重要です。

このことも４月３日の関電交渉で明らかにしていきます。関電にこの問題について真摯に答えるよう求めていきましょう。多くの参加をお願いします。

文科省も関電も小・中・高等学校に原子力推進教育を持ち込もうとしている

２００３年１月１７日に大阪で第１２回放射線利用総合シンポジウムで「原子エネルギー教育の現状と課題―主として初等・中等教育を中心として―」の兵庫教育大学教授 廣瀬正美氏が講演しています。この講演は、大阪ニュークリアサイエンス協会がおこないました。

会長は、関西電力の特別顧問前田肇氏で文部科学省が後援していました。

この講演の中で、「中等・高等学校の先生を対象にエネルギー教育の研修を行っており教材もたくさん用意して持って帰ってもらっているが、それは授業では使われていない。その原因は教員に素材を教材化する力がないからだ。」とか、「子どもには潜在的に、科学教育以前に間違った観念が植え付けられる。放射線は恐ろしいというイメージをもっている。修学旅行で広島・長崎へ行くことで、そういうイメージが植え付けられる。」と、平和教育までも否定する話でした。

そして、まとめとして「発達段階に応じて正しい知識を導入し、正しい科学概念を形成することが大切だ。教材として使ってもらうための学習段階に応じた工夫が必要だ。」と、述べました。「正しい知識」という言葉で、原発の実際の怖さを子どもたちに隠すことを平然と推し進めようと教育など許せません。

また、3月2日には大阪のサンケイホールで資源エネ庁主催の「エネルギー・につぼん国民会議」がありました。これはまさに原発推進会議でした。現地と消費地と交流。現地を見るのが一番。「教育」が大切だと力説していました。太田大阪府知事は、「大阪の小中学生をどんどん見学に行かせたい」といい、平沼大臣は「教育は国だけでは無理だから、電力会社も取り組んでほしい」といい、住田健二さん（元大阪大学工学部教授）にいたっては、「教科書が悪い、チェルノブイリの事故など怖いと思わせるのしか載っていない。もんじゅ判決は具体的な数字をあげているから反論は簡単」といい出す始末です。

「子どもたちを原子力の犠牲にするな！」を合言葉に原子力推進教育に反対する闘いがますます重要となってきています。

また、4月5日福井原子力センターから、次の依頼がありました。

このたび福井県からの委託により「エネルギー学習施設ガイドブックおよびCD-ROM」を

作成し、エネルギー環境教育の一環として役立てていただくため福井県内の学校等に配布することとなりました。つきましては、ブック巻末およびCD-ROMの「エネルギー学習に関するインターネットサイト集」で貴ホームページアドレスを掲載し、リンクさせていただきますようご依頼申し上げます。

私たちは、「福井原子力センターによるエネルギー学習施設ガイドブックおよびCD-ROMの作成・配布は原子力支援事業交付金で行われる原子力教育の一環であり、それに反対している若狭ネットとしては承認できません」と、丁重にお断りました。

各地でもこのような動きに注意してください。

新聞折り込み基金にご協力を

福井では、もんじゅ裁判を闘ってこられた小木曾美和子さんの講演会が、3月1日（土）鯖江市で行われました。また、三方町、美浜町では、久米三四郎さんをお呼びでの講演会が4月6日（日）にもたれました。

この講演会を多くの福井に呼びかけるため、みなさんの新聞折り込み基金（33万円）を活用し、鯖江市、武生市、今立町、越前町、三方町、美浜町などへ新聞折り込みをしました。

今後も粘り強く新聞折り込みなどで問題点を明らかにし、広げていくつもりですが、新聞折り込み基金は、底をつきました。新聞折り込み基金に何口でも結構ですのでご協力をお願いします。

郵便振込 00940-2-100687

若狭ネット

新聞折り込み基金 1口500円

（何口でも大歓迎します。）

若狭ネットニュース 年間 2千円

4月13日(日) 午後2時から午後4時半

脱原子力・エネルギー教育をすすめよう

苅田土地改良記念会館(地下鉄御堂筋線「我孫子」駅3番出口 東歩5分)

主催:地球救出アクション97 稲岡美奈子

0723-39-2871

問い合わせは 久保(0729-39-5660)まで

4月27日(日) 午後1時半から

- 繰り返さないでチェルノブイリ - チェルノブイリ原発事故1周年の集い

スライド「ナージャ希望の村」上映

お話 谷田部裕子さん (JCO臨界事故被害者の会、ナージャの輪)

報告 被災地の現状と私たちの課題

若者からのメッセージ ミニバザーなどなど

ドーンセンター(谷町線「天満橋」下車 歩7分)

呼びかけ:チェルノブイリ・ヒバクシャ救援関西

4月30日(水) 午後6時~

チェルノブイリから17年 - 関電交渉 -

関電本社前集合 午後6時 (地下鉄四つ橋線「肥後橋」駅下車)

問い合わせは 久保(0729-39-5660)まで

案内は <http://www4.ocn.ne.jp/wakasan/> にも掲載

編集後記

プルトニウム利用政策のひとつであった新型転換炉「ふげん」が廃炉となりました。もんじゅもプルサーマルのプルトニウム利用計画もダメだということを普賢菩薩は教えてくれているようです。皆様の新聞折り込み基金で、福井へ新聞折り込みが出来ました。ありがとうございました。

この基金もあとわずかの貯えとなりました。基金運動にご協力をお願いします。

和歌山の御坊市では、原発の使用済み核燃料の貯蔵計画が浮上してきました。旧も早く関西電力に脱原発政策に転換するようさらに働きかけていかなばなりません。 きよ子